

経営比較分析表（令和6年度決算）

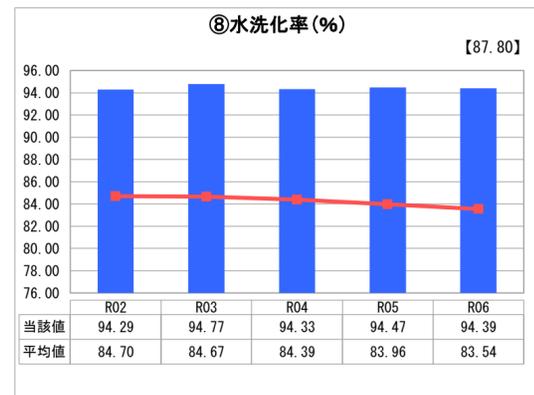
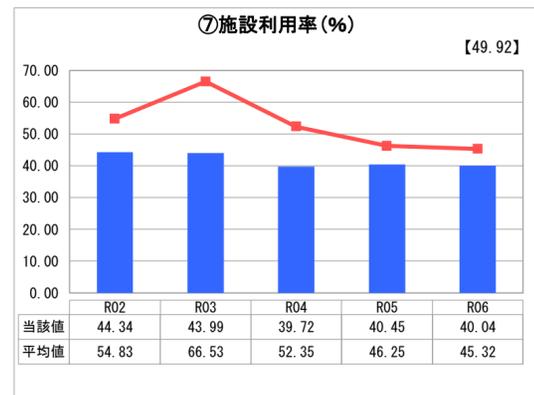
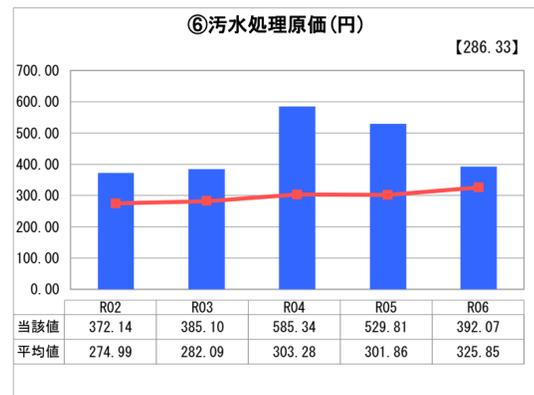
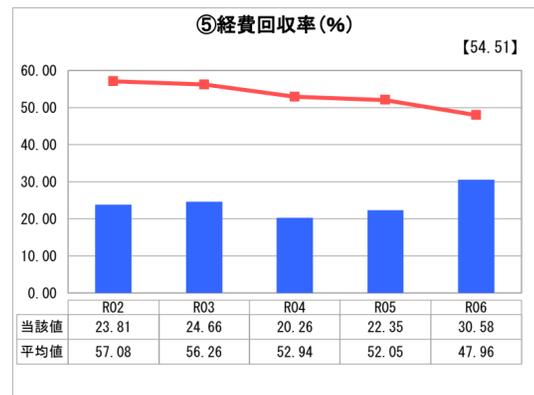
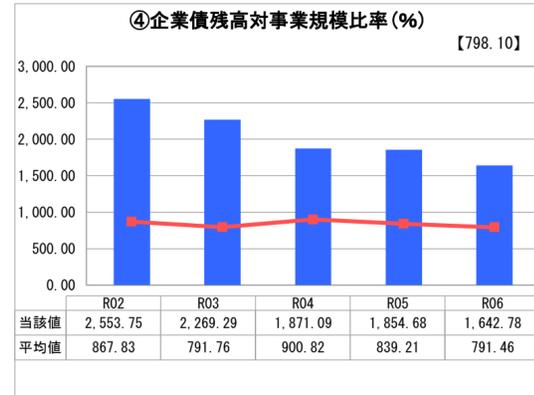
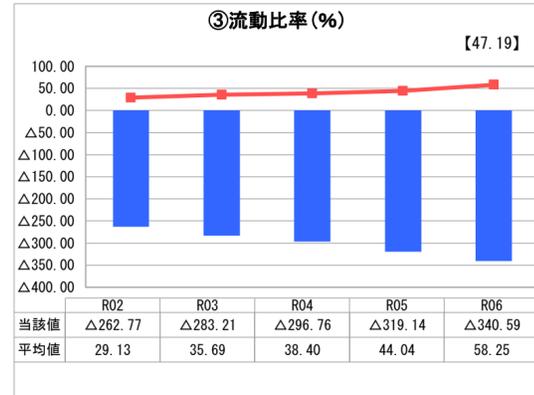
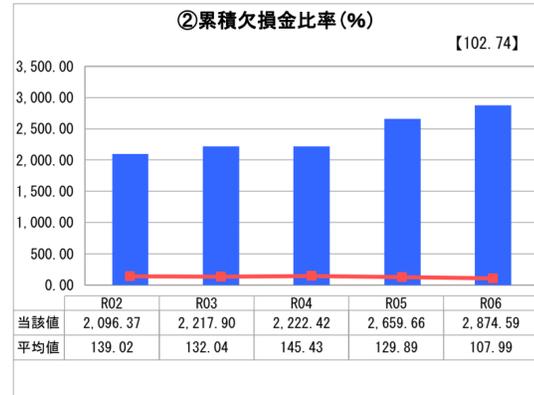
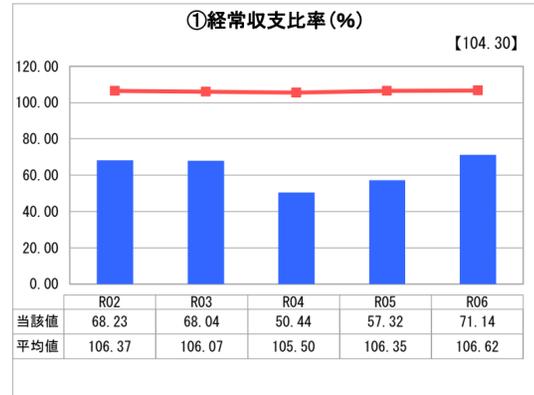
兵庫県 三田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	50.32	4.18	89.23	2,277

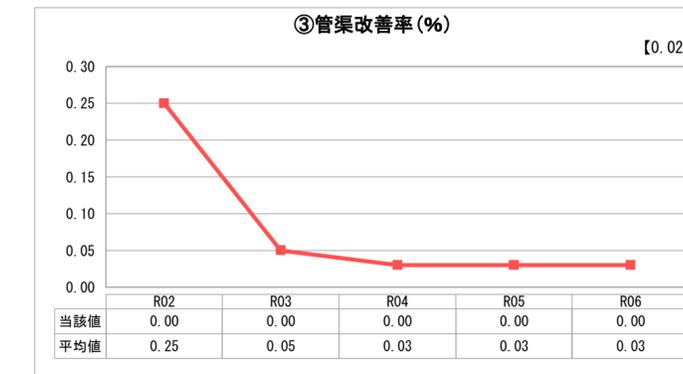
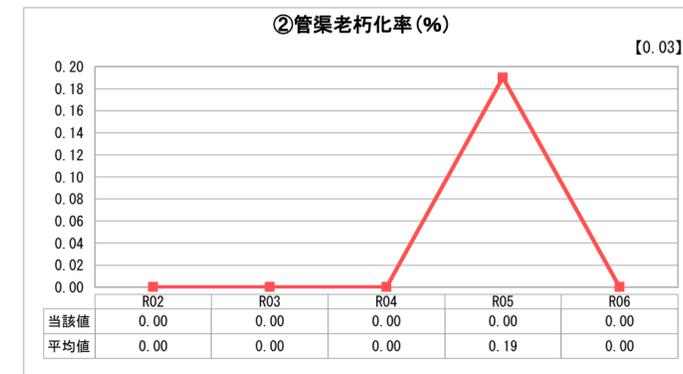
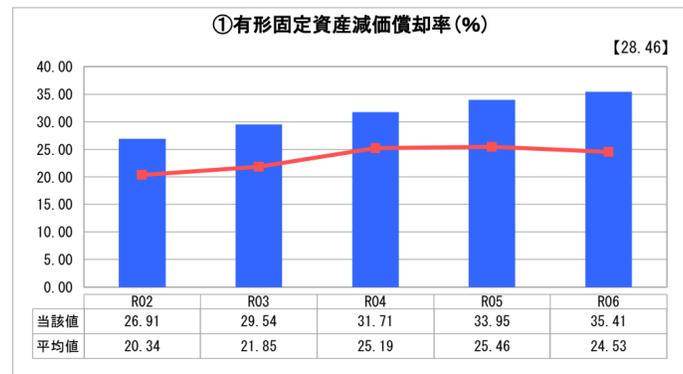
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
106,482	210.32	506.29
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,388	1.91	2,297.38

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

農業集落排水については、市内8処理区8処理場を所有しています。①経常収支比率、⑤経費回収率、⑦施設利用率等いずれも類似団体に比べ低く、⑥汚水処理原価は高い状況にあり、効率が悪いことを示しております。令和3年の使用料改定後は、経常収支比率、経費回収率等若干ですが上昇傾向にあり、経費回収率も若干向上していますが、地理的条件からも費用対効果の面からも区域統合等は困難な状況となっています。唯一類似団体と比較して良い点は、⑧水洗化率が高いことですが、人口減少、生活様式の変化によって使用料も減収傾向であり、増収は見込めないため、さらに経営改善を図っていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

農業集落排水の着手は平成5年であり、耐用年数を経過した管渠資産はありません。しかし、古いものは30年を経過し、一時期に整備した資産が多いことから、今後施設の更新は標準化を図るなど計画的に進める必要があります。そのため、最適整備構想に基づき管渠等の施設の計画的かつ効率的な管理及び改築更新を進めていきます。

全体総括

人口減少や生活様式の変化等により、使用料収入は減収が予測されます。また、効率の悪い事業が経営を圧迫してきていることから、財源の確保が必要です。今後の下水道事業の方向性を示した「下水道ビジョン」や投資・財政計画である「経営戦略」に基づき、令和3年10月に使用料改定を実施しました。今後も適宜、経営戦略等を見直し、経営改善を図っていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。